

文化財情報資料部報（平成二十八年年度）

異 動（平成二十九年四月一日付を含む）

文化財情報資料部長佐野千絵は、平成二十九年四月一日付で保存科学研究センター長となった。

文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長、上席研究員津田徹英は、平成二十九年四月一日付で文化財情報資料部長に昇任した。

文化遺産国際協力センター主任研究員江村知子は、平成二十九年四月一日付で文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長となった。

文化財情報資料部主任研究員皿井舞は、平成二十九年四月一日付で東京国立博物館学芸部調査研究課主任研究員となった。

東京国立博物館学芸研究部列品管理課主任研究員小野真由美は、平成二十九年四月一日付で文化財情報資料部主任研究員となった。

文化遺産国際協力センター国際情報研究室長加藤雅人は、文化遺産国際協力センター技術支援研究室長および文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室兼務となった。

オープンレクチャー

第五十回目のオープンレクチャーは、「かたちからの道、かたちへの道」をテーマに掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催した。

十一月四日（金曜日）午後一時半～四時半

ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』を

めぐる資料群とその発信について

よみがえるオオカミ―飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐって

十一月五日（土曜日）午後一時半～四時半

かたちを伝える技術―展覧会の裏側へようこそ
記憶するかたち、見つけるかたち―文化財の意味と価値

研究会

四月二十一日

黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む

―作家像、東京美術学校、明治洋画史―

神奈川県立歴史博物館 角田 拓朗

五月三十一日

滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察

東京国立博物館 西木 政統

六月二十八日

栗原玉葉に関する基礎研究

―その生涯と作品について―

コメンテーター 長崎歴史文化博物館 五味 俊晶

八月三十日

黒田清輝宛、養母黒田貞子書簡の翻刻と解題

田中 潤

十月三日

広島で地球を針治療する―ロベルト・ヴィリヤヌエヴァ、

キャリア最後のエコ・アート

日本学術振興会特別研究員 山村みどり

十月二十五日

慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器

文様・技法―絵画資料と伝世漆器との対話― 小林 公治

十二月八日

黒田清輝宛山本芳翠書簡 翻刻と解題

福岡県立美術館 椎野 晃史

一月十二日

WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果

―ウェブ版「物故者記事」および

「美術界年史（彙報）」を事例として 小山田智寛

栗原玉葉の画業におけるキリスト教画題作品の意義

田所 泰

一月三十一日

《模型千円札》をめぐる赤瀬川原平の理論形成に

関する予備的考察

コメンテーター 千葉市美術館 水沼 啓和

二月二十四日

甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討

藤栄神社蔵十字形洋剣をめぐる歴史的経緯

甲賀市教育委員会 永井 晃子

藤栄神社に伝わる十字形洋剣（レイピア）の実在性と

年代の検討―博物館コレクション・出土資料・

絵画資料による予察―

小林 公治

藤栄神社所蔵の洋剣について

東京国立博物館 末兼 俊彦

藤栄神社蔵十字形洋剣

X線CTスキャンおよび蛍光X線分析について

京都国立博物館 池田 素子

藤栄神社蔵十字形洋剣について

―海外資料との比較―

東京藝術大学 原田 一敏

三月二十八日

遊行上人縁起絵の諸相

詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵

―伝世諸本の位相―

津田 徹英

金蓮寺本遊行上人縁起絵について

渥美国際交流財団 本多 康子

遊行上人縁起絵諸本の絵相について

京都国立博物館 井並林太郎

遊行上人縁起絵に描かれた真教と情景の一考察

遊行寺宝物館 遠山 元浩

一遍聖絵と遊行上人縁起絵における図様の共有

神奈川県立金沢文庫 梅沢 恵

刊 行 物

『法華山一乗寺蔵 国宝聖徳太子及天台高僧像 光学調査報告書』平成二十九年三月

『日本美術年鑑 平成二十七年年度版』平成二十九年三月

『宮内庁三の丸尚蔵館 所蔵 春日権現験記絵 卷一・卷二 光学調査報告書』

平成二十九年三月

『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』

平成二十九年三月

本誌第四百二十号掲載の研究資料「黒田清輝宛 岡田三郎助書簡について」の訂正
本文を以下のように訂正いたします。

六九頁三行目「久保田米僊」↓「久保田米斎」

（高山 百合）